

J O Y 倶楽部へ勤務するようになり、もう 3 年目、まだ 3 年目、やっと 3 年目。思いおこせば 3 年前、ご縁があり勤務することになり、初めて理事長にお会いした際、理事長より、「社会福祉の世界の経験があなたにはないよね」と言われ、「はい」と答え、しかし私は「社会福祉の世界の経験がございませんが、厚生年金福祉の経験はあります。」と答えました。今になってみれば、お恥ずかしい話です。「社会福祉について」不勉強だったことを思い出します。

今、J O Y 倶楽部にいて経験することが「社会福祉について」の勉強であり、法人の理念「生命の尊厳」「社会生活の支援」「子どもの発達支援」「共生社会の実現」を理解する場所であると思いますし、ここでの経験は私自身にとって、貴重な「宝もの」だと思っています。

最初 J O Y 倶楽部のメンバー達と接した際、毎日泣いたり、笑ったり、時には怒ったり、忙しい人達だなど思いました。しかし、あるときのコンサートで、出番真近かの彼らを見たとき、私に衝撃が走りました。随分と遠い昔に味わった時の衝撃でした。出番前の楽屋では普段と変わらない様子が一変、「しゃん」と一列に整列し、少し強張った顔、緊張した趣きで、目は「キラリ」とプロフェッショナルな眼差しで指揮者に目をやり、指揮者のかけ声のもと、スポットライトのあたる煌びやかなステージに向かう姿を見た瞬間、「ゾクッ」とするような感覚を覚え、感動のあまり彼らの「虜」になってしまいました。

その時から「人に感動を与える仕事を彼らと一緒に実現したい。」、これこそが自分のライフワークにしていくべきことだと思いました。

人にはいろんな人生があり、過去にもどることはできませんが、未来に向かって進むことはできると思いますし、彼らと共に突き進むことこそが「感動」である思います。

人生を将来振り返ることがあるとき、「自分の人生いろいろあったが、まんざらでもない、楽しい人生だったなあ」と思える仕事にめぐり会えたことに感謝しています。